



国分寺 フレーバーライフ社 本社ビル



都市木造の普及を目指した 『普及型木質ハイブリッドモデル』プロジェクト



木質ハイブリッド耐火部材：
カラマツ集成材（長野、一部北海道産材）

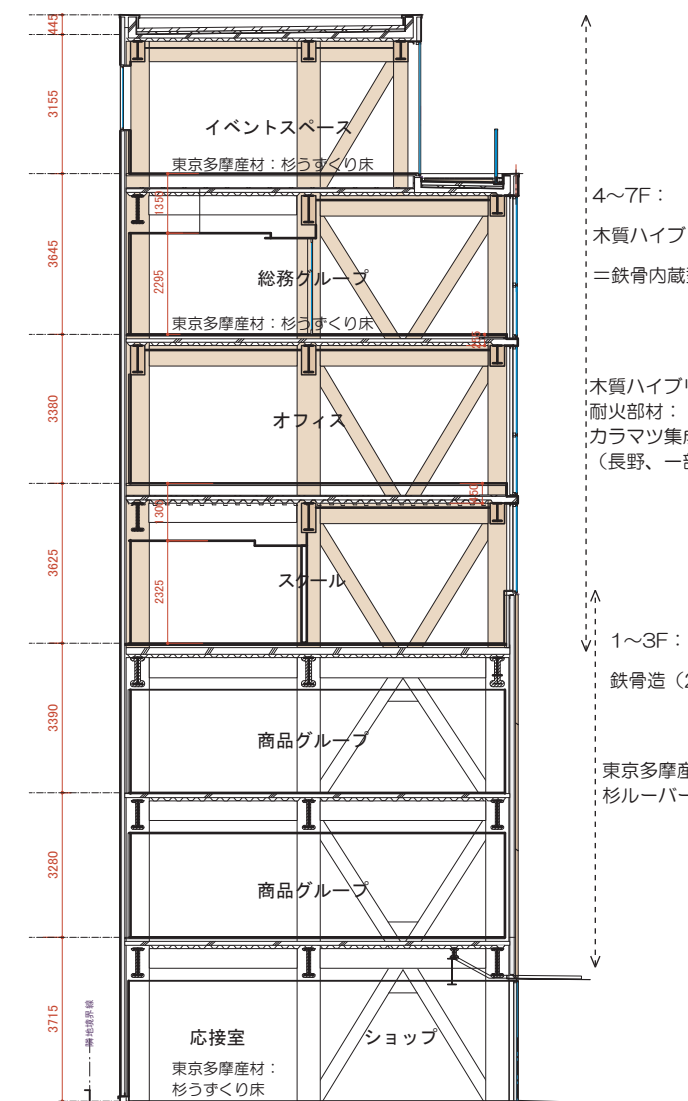
東京多摩産材：
杉ルーバー



4～7F：
木質ハイブリッド造
＝鉄骨内蔵型
1時間耐火

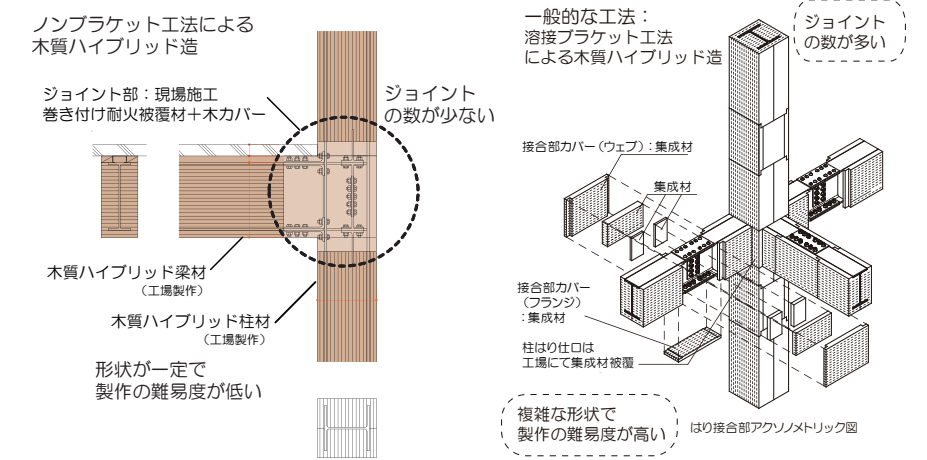
1～3F：
鉄骨造
2時間耐火

1 オール鉄骨造を実現～高層化・一般化へ

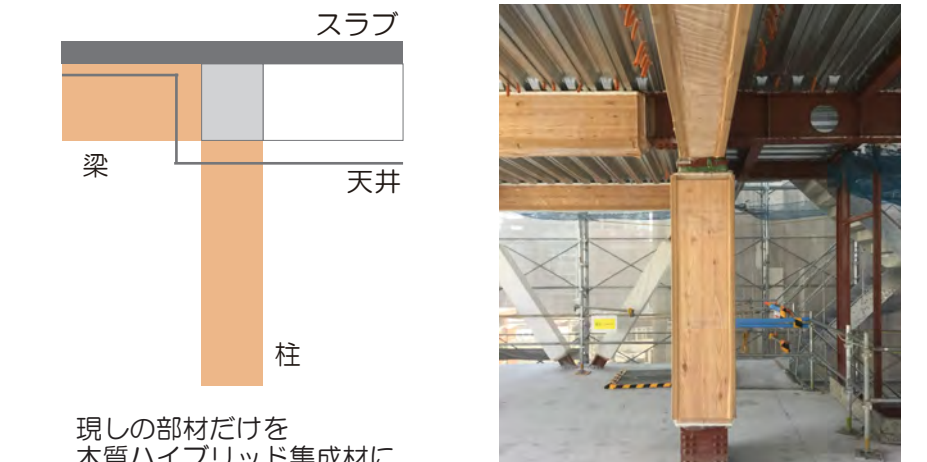


断面図

2 ノンブラケット工法の採用～部材製作の簡略化、部材搬送の効率化でコストダウンと施工の簡略化



3 木質ハイブリッド集成材と一般的な耐火被覆材の併用 必要な部材だけを木質ハイブリッド化できるように



まちなかに、人々に目に見える形で、ビルと呼べる規模の木の建築が普通に建っていることは、誰しにも分かりやすいメッセージとして、現代の建築と都市景観の可能性を伝えている。

木材利用活性化のためにも、大消費地である都市での高層建築、そして民間の事業者による木造をもっと増やしたい。そんな思いを、施主と施工者との強力なタッグで実現した、国分寺駅そばの商店街に建つ国内初の7階建木質ハイブリッドビルである。施工も設計もしやすい適正なコストを実現した「普及型ハイブリッドモデル」だ。

木質ハイブリッド集成材のこれまでの採用例では、2時間耐火との境界部分に課題があり、解決策を見出しておらず、オール鉄骨造とした例はなかった。また、複雑な集成材製作過程によりコストも増大していたため、高層化、一般化への道が閉ざされていた。本件では、耐火検証試験を行って、オール鉄骨造を実現するとともに、木質ハイブリッド集成材と一般耐火被覆を同一階で混在できるようにした。鉄骨接合部にはノンブラケット工法を採用し、集成材工場での製作を簡易化、運搬を効率化し、コストダウンに繋がった。これらの工夫により、上層4層ハイブリッド造は、何階建てでもすぐに実現できるモデルとなった。新しい技術を開発していくだけでなく、開発済みの技術を改良し市場が使いやすいモデル＝スタンダードを目指したのだ。日本のどこでも、誰でも木造ビルが建てやすくなるはずである。

内外装にも、様々な形で木を活用

